

東邦キャンパス

平成 20 年（2008 年）5 月 20 日
発行 学校法人 東邦学園
〒465-8515 名古屋市名東区平和が丘 3 丁目 11 番地
TEL 052 (782) 1241 FAX 052 (781) 0931
<http://www.aichi-toho.ac.jp/>

1万2千人巣立って…短大最後の卒業式



着飾って、晴れやかな笑みに包まれる学生（写真）たち……。愛知東邦大学と東邦学園短期大学で、3月19日に行われた卒業式と、教室での風景です。

上の写真は短大生総代となった田上可奈子さん。卒業証書を山極完治学長から授与されました。高校、短大、大学の卒業式は恒例のことでしたが、今春は43年の歴史を重ねた東邦学園短期大学にとって、幕を下ろす式となりました。昭和40年に開学、さまざまな教職員に支えられながら計1万2570人が巣立っていきました。（6ページ参照）

愛知東邦大生の代表と一緒に答辞を述べた短大の山路優子さんは「私たちが育ててくれた短大は姿を消します。寂しくないと言えば嘘になりますけれど、たくさんの経験をして、大切な友人も増え、濃い学生生活を過ごした場所でした」と思い出を語りました。



高校に文理特進コース開設

東邦高等学校では4月、新たなコースに29人の入学生を迎えました。これまでの国際と理数両コースを発展改組して新設した文理特進コースです。土曜日にも授業を行い、普通コースより5単位多い年間35単位を履修します。

また学園では、5年間務めた伊藤時雄理事長が退任し、榊直樹常務理事が新理事長に就任しました。（4ページ参照）

卒業入学

* 大学・短大卒業式 *

❀ 出会い・別れを繰り返し成長を! ❀

愛知東邦大学第4回目と、最後の卒業生を送り出す東邦学園短期大学第42回目の卒業式が、3月19日(水)10時から体育館で行われました。今年の卒業生は大学167人と短大95人でした。

式典は高校吹奏楽部OB・OGによる式典序曲の演奏で始まり、山極学長から大学・短大卒業生代表に卒業証書が手渡されました。

山極学長は式辞で、「これからが人生の本番。人は仕事で磨かれるので、自分の持ち味を生かして前へ前へと進んでほしい」とエールを送りました。

伊藤理事長は、「出会い・別れを繰り返して成長を続けるのが人間です。異文化・異なる環境の中で、流れに流されず主体性をもってほしい」と祝辞を述べました。

この後、在学を代表して西川佳介さん(大学経営学部)が卒業を祝し、送辞を述べました。

これを受けて卒業生を代表し、大橋智帆さん(大学経営学部)は4年前不慣れな中で、ゼミ演習ですばらしい友人を得たことや、アメリカ留学で日本の快適さ、家族の大切さを知ったことを述べ、山路優子さん(短大)は、つらかった就職活動で社会の仕組みを知ることができたこと、在学中にさまざまな財産を得て、新しい環境でも日々努力していく、という答

大学・短大卒業記念品

大学・短大卒業生から母校へ卒業記念品として、大学のあゆみを示す記念プレートが贈られスチューデントホールの壁面に飾られました。

「東邦学園短期大学」(2007年度閉学)、「東邦学園大学」(2007年度名称変更)、「愛知東邦大学」と移り変わった大学の歴史を象徴するものになればと考えています。

来学の際には是非ご覧下さい。



辞を述べました。

14時から会場を名古屋国際ホテルに移し、卒業記念パーティーが開催されました。卒業の喜びが溢れた学生と教職員が歓談し、名残惜しい時間が過ぎました。

* 高校卒業式 *

❀ 新校舎で初めての「卒業式」 ❀

東邦高等学校校務部 今井 通昭

高校では3月1日(土)、新校舎で初めてとなる卒業式が挙行されました。第59回卒業証書授与式は、眩い香りがいたる所に感じられる体育館で、清々しい緊張感に加えて、まだ春寒の残る肌寒い空気にやや身震いしながら、多くの来賓や保護者の方々、在校生、教職員が見守る中、厳粛にとりおこなわれました。体育館での式典が終了した後は、クラスでの最終ホームルームが行われ、笑顔と涙が溢れる中、



クラブ後輩送り出し風景

高校卒業記念品

2007年度卒業生から母校へ電波修正付太陽電池時計(直径90cm)1台が寄贈され、グラウンドに取付けられました。



担任の先生や級友との、慣れ親しんだ教室での最後の時間を過ごしました。クラブ活動で頑張った者は、後輩による恒例の送り出しに大感激しながら、それぞれの思い出を胸に、校門を後にしていきました。

この日卒業を迎えた総勢549名の卒業生は、2年間の旧校舎と1年間の新校舎での高校生活を終え、各々の進路へ向けて巣立っていきました。

* 平成19年度 高校表彰者一覧 *

下 出 賞	鬼頭 杏奈、平松 千波、富山 知佳 川本 雄司、近藤星里香、梅里 香澄		
	愛知県知事賞	岡崎野乃花	名古屋市長賞
私学協会賞	田原 歌奈	私中高連賞	辻 博子
産振中央会賞	萩原 亜衣	県産振会賞	中須賀 愛
全商協会賞	犬飼かおり	商業教育振興会賞	安庭 由希

* 大学入学式 *

❀ 自分再発見の大学生活を送って ❀

4月1日(火)、体育館で愛知東邦大学入学式が行われ、人間学部130人、経営学部204人の計334人が門をくぐりました。当日はすばらしい快晴。満開の桜に恵まれ、式典は東邦高校吹奏楽部による式典序曲の演奏で始まりました。

山極完治学長は式辞で「あなたの中に、自分の知らない世界がある。新しい自分を発見し、活かす大



入学式受付風景 いよいよ大学生活が始まる

学生生活を送ってほしい。そのために、今年度よりスタートした学修教育支援センター(学修と学生生活を支援する部門)を有効に利用してほしい」と力説しました。

榊直樹新理事長は本学の理念である「真面目な人材の育成、信頼できる人材の育成」について紹介し、「人間の信頼こそすべての基礎である」と述べました。

新入生歓迎では在学を代表して、近藤頼人さん(経営学部4年)が「学生生活で笑うことの大切さ、笑顔の大切さ」をアドバイスし、新入生代表の天野了さん(経営学部)は、「社会から信頼される人格を身に付けたい」と宣誓しました。

* 高校入学式 *

❀ 新しい輝きの中で ❀

4月5日(土)午前9時、今年から新設した文理特進コース生徒29人をふくめ新入生577人と保護者を迎えて、体育館にて入学式がおこなわれました。高井校長からは「新しいコースの生徒も迎え、学習にさらに力を入れよう。生活もふくめて、名実ともに新しい東邦を生徒と教師で創り上げていこう」と新入生へ期待をこめて式辞がおくられました。

また新入生代表の山田早紀さん(植田中)は、「高校生活はすべてが新鮮です。ひまわりのように前を向いて努力したい」と誓いの言葉を述べました。

緊張した中にも新入生の輝く顔が印象的な入学式でした。



高井校長からの式辞を聞く新入生

東邦学園理事長交代

時流に動じない建学の精神で

新理事長 榊 直樹

この4月から、学園理事長に就任しました。高校校舎改築、大学の運動場建設と新学部開設を成し遂げられた伊藤時雄前理事長の後を継いで、第8代目となります。常務理事として学園にお世話になって2年。微力ですが、どうぞ宜しくお願い致します。

とめどなく価値観が多様化し社会が複雑化していく時代、目まぐるしく変わってゆく人々のニーズにどう応えていったらよいのか――。

振り返ると驚くばかりです。50年前、ドーナツ盤のレコードを親から貰って飛び上がった子供のころが忘れられません。大学生の時、カセットレコーダーを手にして、小ささの限界だと信じました。新聞社に入って間もなく、ポケットベルを持たされました。一方通行の呼び出し（もちろん番号など表示されない）で、ひと晩の充電を忘れると翌日は電池切れしましたが、それでも一丁前の記者になった気分でした。それが今、線がつながっていないのに音楽が雑音なく受信でき、文章のみならず動画までカラーで瞬時にやり取りできる携帯電話を当然のように使っています。30年前には想像もつきませんでした。

栄枯盛衰は止みません。8ミリ、16ミリの映写機を欧米に輸出までしていた名古屋の老舗メーカーは、ビデオの登場で30年前に経営が行き詰まりました。そのビデオでVHS方式によってソニーを打ち破った東芝が、今度はソニー中心のブルーレイ陣営に敗れて撤退の憂き目です。

全入時代に突入した大学をみると、学部や学科の看板を毎年のように架

け替えて、募集にまい進する大学があります。少子化の中で、高校だけでは成り行かないとして、中学生さらに小学生の段階から「囲い込み」を始める私学も相次ぎます。

教育機関である東邦学園は、ITの最新機器を売るようなスピードで新商品を並べ替えることはできません。する意思もありません。誇りを持って大切にすべきは、確固として動じない建学の精神です。現代風に解釈すれば「社会に信頼される人材を愚直に育て、送り出す」ことでしょう。

私学には、経営体という側面がつきまといます。今春から東邦高校の学納金を新1年生から1か月当たり2000円引き上げさせていただいたのは、収支の均衡を図って、独立・自立した経営や財政を持続していく必要があるからです。どうかご理解下さい。

多様な人材を送り出す担い手は、それぞれが個性を活かして教育をほどこせる私学であると思います。その条件を整えるため、満85年を超えた学園の経営に渾身の情熱を傾けて当たる決意です。

心と気持ちはいつまでも東邦に

前理事長 伊藤 時雄

この3月に理事長を退任しました。2000年春の校長退任の際にも「別辞」を述べさせていただき、今またお別れのご挨拶をさせていただき、巡り合わせの不思議さをかみしめています。

学園理事会・評議員会の方々、同窓会や後援会、PTAの方々、「フレンズ・T O H O」会員の方々、各界各分野で多様なお付き合いをさせていただいた



榊 新理事長と伊藤 前理事長

方々、また大学・短期大学、高等学校の先輩と現役の教職員の方々、特に事務局職員の方々と私が教員であったときの多くの卒業生に、退任にあたり長年のご支援とご協力に心から感謝申し上げます。

2001年4月に学園の諸般の事情により法人常務理事をお引き受けして間もなく、理事長の下出保雄先生が病に臥され、その職務の代理代行を経て2003年4月に理事長に就任しました。青天の霹靂、私にとっては「とんでもない事態」に遭遇したわけです。学園に対する責任と自分の人生に関わる深刻かつ重大な問題が降りかかってきたわけですから…。

2003年の学園創立80周年を期して、理事会は三つの記念事業計画とそのための募金計画を学内外に発信しました。これだけの規模の事業計画を同時並行的に推進することはかなり大胆な決断でした。三つの事業は必要に迫られているにも拘らず先延ばしにされ、「構造的不況産業」といわれ始めた私学経営にとってこれ以上放置できないこと、事業計画を学内外に公表すれば学園理事会自らを不退転の覚悟に追い込み、懸案の事業計画を確実に実行し、あわせて課題も明確になるであろうという私なりの判断がありました。決断の裏づけとなる過去25年間の財務分析や、事業内容に関しての常任理事会や事務局レベルでの宿泊研修会などを重ねたことはもちろんです。

ともあれ、私は理事長就任後の学園運営の基本を「攻め」と「動き」におき、常に問題・課題を隠さず、避けて、逃げず、むしろ頑なに愚直に正面から向かって挑戦してきたつもりです。同時に、私にはひとつの癖というか仕事の流儀というか、我儘な習性があります。それは同じ職務や職責を長く続けられないということです。年相応に繕って続投はできませんが、正直に申し上げると、4～5年同じ仕事をやっている「燃え尽き症候群」とでもいうような状態になり易いことを自覚していました。校長在任期間が5年、その前の教頭職が4年、学年主任が4年、二度目の教務部長が少し長くて6年間、という具合です。校長在任中の最後には完全燃焼し、退任後の残り火を消壺に入れて次なる生き方へと踏み出そうとしていた矢先に、やや強引とも思われる法人常務理事への辞令でした。以来、私は常に出処進退を考えて職務を遂行してきました。

人生には「出会い」と「巡り合わせ」という横糸

と縦糸の織り成す世界があり、自分はそのような世界で多くのことを学び、人に支えられて生きてきたことを実感しています。ありがとうございました。学園の更なる充実発展を祈念し、皆様方のご健勝を心からお祈り申し上げます。

研究所の出版物

「地域医療再生」と「まちづくり」をテーマに

1月から3月へかけて、「地域創造研究所」から2冊の本が出版されました。

本年1月には、医療機関の経営問題を研究していたチームの研究成果が、8冊目の研究叢書『地域医療再生への医師たちの闘い』として東京の唯学書房から出版されました。名古屋、中津（大分県）、木曽（長野）の各病院の実態を分析し、地方でも都市でも病院経営が苦境に陥る原因を探りました。出版後の反響が大きく、2月には早くも増刷しました。

3月には、9冊目の研究叢書として同じ出版社から『地方都市のまちづくりーキーマンたちの奮闘』が出版されました。これは、大学と研究所がこれまで開催してきた、「地域問題」に関する4テーマの講演会とシンポジウムの記録をまとめたものです。収録テーマは「愛知は地域が元気」「地域のおカネは地域で」「地域と流通」「町並み保存とツーリズム」。



短期大学閉学 大学への完全転換終える

東邦学園短期大学は2008年（平成20年）3月末をもって閉学しました。

「信頼される人材の育成」を教育目標として1965年（昭和40年）に開学して以来、12,000名を超える卒業生を社会に送り出しました。今後は43年にわたり築き上げてきました教育実績を愛知東邦大学に継承します。

これまで東邦学園短期大学の充実・発展にご協力をいただいた全ての皆様に、心から御礼申し上げます。

東邦学園短期大学の歩みをふりかえって

元短大学長 原 昭午



今年3月をもって東邦学園短期大学の歴史が閉じられた。その創立に関わったものとしては、なごりおしさと共に一つの時代の終わ

りを感じざるをえない。それにしても、短期大学という教育システムが過去のものとなっていく事実をどう受けとめたらよいのであろうか。近年の大学教育をめぐる厳しい状況は、外部にいる我々にも伝わってくるが、40年近く短大で学生らと学園生活をともにしてきた者として、そこにおいて培われ、また伝えられてきた教育遺産は、今後継承されるべき意味を有していると考えます。卒業生のその後の歩みと各分野における活躍ぶりをみると、ここ数十年にわたる日本社会において短期大学の担ってきた教育の役割は十分実証されていると考えるのであるが、しかし、近年の進学動向において、4大志向偏重と企業側の求人状況などにおいて、現状は止むをえぬところであろうか。

こうして筆をとりながらも、一回生に始まる卒業生諸君の顔を思い浮かべながら今後とも同窓生としての友好と信頼の関係を保ち続けたいものと願っている。

短大時代の思い出は宝物

短大卒業生（23回生1989年卒業） 森川 早苗（旧姓柴田）



私は短大を卒業して20年になります。現在は、同窓会で副会長と学園の評議員をさせていただいております。

私の短大時代の思い出は、自治会や大学祭実行委員などの活動に一生懸命だったことばかりが思い出されます。勉強の方はあまり一生懸命ではなかったような…。ホームステイに行ったことも、今まで想像でしか知らなかった世界を知り、私自身の視野が広がった体験となりました。

今思うと、社会人になってからでは経験できないことを学生時代にいっぱい経験できたことが、今の私の源になりいろんなことに挑戦する意欲になっています。

今では3人の子供の親となり、子供達がどんどん成長していく中で、私が学生時代にいろんな経験をしてきたように、子供達にもいろんな経験をしてたくさんのことを吸収していってくれたらなあと思っています。親のありがたさを感じるようになりました。

短大は昨年度で閉学となりましたが、私たちが学生だった頃の楽しい思い出はこれからもいつまでも忘れられない宝物です。

高校の行事

3月24日～28日
新2年生向け 春の学習会

高校英語科教諭 波多野 稔久

さる3月24日、高校の二次入試が終了した日の午後から、普通コース及び国際コースからの応募者17名を対象に、国語、英語、数学の3科目で学習会が開催されました。初日は二次入試の関係で午後2時からの開始となりましたが、同時開講室（教室）に集まった参加者たちは、学年主任の中林先生の挨拶でまずは気を引き締めて受講開始。二日目からは通常通り、朝8時50分から12時40分までの日程で、最終日まで、延べ5日間のスケジュールをこなしました。最終日は、最後の授業の後、学年主任差し入れのお菓子で一息入れて締めくくりました。



理数コース 春の学習合宿「Stay On Track」

2年理数コース担任 小畠 大介

3月25日から27日の2泊3日で1年理数、2年Bコース、国際コース、理数コース合同の学内で春合宿を行った。ここ最近、夏の学習合宿はあるが、春の合宿はない。しかし、この春休みを単なる休みとせず、次年度に向かい一歩先に学習を始めようと、「Stay On Track」と合宿に名前をつけ募集をかけた。集まるだろうか？という心配をよそに、45名集まった。「受身の勉強から自主的な学問へ」を目標としたので、基本学習姿勢は自習とし、1日につき3コマだけ講義を用意、これも自由参加とした。

途中、部活へ行く生徒や塾へ行く生徒も参加可能とし、かなり自由度を残した合宿であった。また、学内

で行ったため、費用を抑えることができたのも魅力の一つであった。

なかなか交流を交わすのが難しかった1年と2年との交流もあり、新3年となる2年生の真剣な学習姿勢を1年生は感じ取り、学習の雰囲気はとても良好であった。合宿を終えて、生徒達の進路意識と学習意欲は大きく高まり、「See your goal, you can do it!」と言葉を贈った。希望大学に向けて、今後も日々の学習を積み重ね、高き志を持ち、決してあきらめずに頑張り続けて欲しいと願う。



雨と晴れだった学級合宿

新入生恒例の行事である「学級合宿（オリエンテーション合宿）」を、4月23日（水）から25日（金）までの期間で、15クラス（577名）を前団と後団の2編成にし、それぞれ三重県の湯の山と岐阜県の恵那峡の2カ所に分かれて、1泊2日の日程で実施しました。日程の中日には激しく雨が降りましたが、バーベキューや大縄飛び・ドッジボールのリクリレーションも実施でき、全員が目的を果たし、無事に名古屋に帰着しました。



大学の行事

経営学部新たに「保健体育」教職課程を設置

経営学部長 長南 仁

文部科学省より、2008年度から本学経営学部「保健体育」教職課程を開設することが認定されました。これによって2008年度経営学部入学学生から、「中学校教諭一種免許状（保健体育）」、「高等学校教諭一種免許状（保健体育）」の取得が可能となりました。本学経営学部ではすでに2006年度入学学生より「高等学校教諭一種免許状（商業）」の取得ができるようになっていましたが、今回の認定で教職課程の分野をさらに充実させることができました。

経営学部では2006年度からスポーツマネジメントコースを設置しています。このコースは経営学部地域ビジネス学科に「経営」「地域」「健康」「スポーツ」を複合的に学ぶために設置されたものでした。本コースをさらに充実させるために、従来のスポーツリーダーの養成などの「スポーツ指導分野」に加え、「教育分野」における人材の育成が必要不可欠であると考えての「保健体育」教職課程の設置でした。従って、経営学部で「保健体育」の免許状を取得しようとする学生諸君は、スポーツマネジメントコースに所属することが必要です。

学内企業展を開催



本学では、これまで人事担当者を学内に招き、「求められる人材・採用スケジュール」などをセミナー形式で実施してきました。今年はセミナーに加え、学園支援組織「フレンズ・TOHO」の協力を得て、初の取り組みとなる「学内企業展」を2月14日（木）に開催しました。

学内企業展には延べ29社からご協力をいただきました。企業の中には、本学の卒業生も採用担当者として参加し、後輩の就職活動の支援をしてくれる光景がありました。卒業後も本学の教育活動に携わってくれる卒業生を見て嬉しい気持ちで一杯になりました。

学生が本来の「働く意義」を考え、自ら考え行動できるよう、今回のような実体験を通じた教育の場を今

後も増やし提供していきたいと思います。

愛知東邦大学入学前セミナー

導入教育の再構築WG 肥田 幸子

3月15、22、23、29

日の4日間にわたり、入学が決定した学生を対象とする集合セミナーと個別面談を実施しました。今回は初めての試みで、入学者全員に行うことはできませんでしたが、約80人が参加しました。目的は、入学予定の学生に対し、大学生生活の目標を考えさせ大学生になる意欲を高めていくことによって、後のキャリア教育につないでいこうとするものです。講師は外部で活躍されているキャリアアカウンセラーの方々をお願いしました。

参加学生のアンケート結果は集合セミナー、個別面談ともに好評で、講師の方々からはこのような取り組みを行うことに対する期待と、学生の真剣な態度に感心したというコメントをいただきました。



2008年度 経営学部 新入生研修 綱引き大会・大縄跳びで 大粒の汗を流し、交流を深める

経営学部教授 深谷 和広

4月1日（火）フレッシュで元気な経営学部新入生201人を迎え、その翌日新入生研修を実施しました。これまでの経験を踏まえて、1日をフルに活用して積極的なコミュニケーションプログラムを行いました。この新入生研修は、新入生同士、また上級生や教員とのコミュニケーションをはかり、学生生活のスムーズなスタートを促すことを目的とするものです。1日の新入生研修の機会を通じて目的としたコミュニケー



大縄跳びで盛り上げる新入生

ションを深める効果は期待通り十分なものでありました。学生たちは1日のプログラムを通じて大切な仲間との出会いを得ることができました。

今回の、新入生研修において上級生としてサッカー部の先輩たちも参加し、1日のプログラムで各ゼミに分かれて大活躍してくれました。先輩たちの活躍には目を見張るものがありました。上級生の存在はプログラムを実施する上で大変プラスの面が大きいものであります。次年度には上級生が中心となってプログラム運営できるよう、新入生研修の準備を進めたいと思いました。

子ども発達学科 1・2年合同オリエンテーション

大学人間学部教授 矢藤 誠慈郎

愛知東邦大学人間学部子ども発達学科では、4月2日、愛・地球博記念公園内の愛知国際児童館記念館と愛知県児童総合センターにおいて、①年度当初のオリエンテーション、②1・2年次生の交流、③保育の専門的な学習の一環としての児童総合センター見学を組み込んだ研修プログラムを実施しました。

国際児童館記念館では、大学の授業や学生生活についてのオリエンテーションの後、2年生の実行委員によって、教員紹介や、グループに分かれて折紙を製作するなどの交流が、和やかな雰囲気の中で行われました。

昼食の後、児童総合センター長・田嶋茂典先生による、センターとそこでの遊びのコンセプトについてのお話をうかがいました。同センターの取り組みは、学会の賞を受けるなど全国的にも注目されており、田嶋先生のお話も学生にとって実り多いもので、熱心にメモを取る学生の姿が多く見られました。

その後、隣接する同センターに移動して、たくさん子どもたちと同様にさまざまな興味深い遊びを経験し、また親子で生き生きと遊ぶ姿から、保育者の卵として多くのことを学びました。引率教員も大いに楽しめる施設で、また教育のヒントもたくさん得ることが



大学の行事

できて、とても充実した見学となりました。

今回利用した施設のスタッフには東邦高等学校の先輩もおられて、今後ますます学生の教育を充実させるための縁が広がり、実りある一日でした。

学修教育支援センター開設

教育支援委員長 矢藤 誠慈郎



大学では、4月7日（月）に「学修教育支援センター」を開設しました。

支援センターは、学修（講義についての相談や学習の仕方のアドバイス）、学生生活（人間関係の悩みや困っていることの相談）、キャリア（進路や生き方についての相談）、教育実習・保育実習など、何でも尋ねることができる総合的な相談窓口です。

専属のスタッフと教職員が協力して、学生さんの問題や課題について、学生さん自身との協働によって解決していきます。

相談を受け付けるだけでなく、ミニ講座など支援センターからの企画も少しずつ取り入れて、みなさんと一緒に創り上げていきたいと思っています。

キャンパスにいる人たちみんなの笑顔や元気の源になるセンターになるよう努力していきたいと思っています。

平成20年度高大連携授業始まる

経営学部教授 深谷 和広

東邦高校との高大連携授業がスタートし、4月10日（木）13時30分から盛大な開始セレモニーが行われました。1年間さまざまな先生方の楽しい授業が行われる予定です。





高校国際交流室長 河野 芳江

1月、姉妹校マリアンカレッジから久しぶりに留学生を迎えました。ジェニファーという4年前にソウルから移住し、韓国語、英語はもとより、2年前から始めた日本語も1級という実力で、現在は中国語もという才女です。始業式には全校生を前にかなり緊張した様子でしたが（マリアンは小規模校）、在籍した1年L組では初日からすっかり打ち解け楽しい2ヶ月を過ごしました。彼女の積極的に行動する姿は周囲に刺激を与えていました。

2月には台湾の中歴高校が修学旅行の途中に立ち寄りました。1年と2年の国際コースの生徒が歌やダンスを披露して交流会を始めましたが、台湾生の出し物（F4の真似）は大受けで、両校が一体になって歌うことができました。全くわだかまりなく笑い合う彼らの姿は、傍目にもとても嬉しいことでした。ジェニファーも張り切って参加していました。

3月2日、ジェニファーは級友、先生一人一人に、そして学校にもすてきなメッセージを残して帰って行きました。（交流室前の掲示板をご覧ください）

この4月からは2年生に、南京外語から金 肅君と張 洋さんが来て一緒に学んでいます。今年もいろんな国の人々と交流を深め、心の垣根を除いて行きたいと思っています。



台湾の高校生との交流会

（留学生からのたより）



経営学部3年生 藤綱 宏城

昆明に来て2ヶ月半が過ぎました。現在は雲南大学で中国語の勉強をしています。寒い2月末に来た早々は不安がいっぱいでしたが、色々な外国人や日本人留学生にも助けられて、今は順風満帆な日々です。昆明は気候も雰囲気も名古屋に似た大都会で、町を歩いていても違和感がありません。今回の留学は上海でのインターンシップとは違い、自分で決意した語学留学です。始めてみると半年間の語学研修では不十分なことを痛感していますので、休学してでももう半年間中国語を磨けるように、今度、両親に相談しようと思います。

雲南大学での授業は、先生が話すのは中国語か英語です。最初はその場の雰囲気理解、聞き取るだけで精一杯でした。しかしだんだん慣れて、2ヶ月経った今では日常の会話には困りません。韓国人やタイ、ベトナム、アメリカ、セーシェル人など、色々な友達が出来ました。ここで中国語がうまくなるコツは、恥ずかしがらずにみんなと話すこと、中国語の基礎を持っていること、中国語は楽しい言語だと思ふこと、だと思います。

日本には、中国はチベット暴動・毒入り餃子、オリンピック聖火問題などで、行きたくないと思う人がたくさんいるようです。ただ、実態を知らずに中国のイメージを勝手に決め付けるのはよくないことだと思います。長いようで短い大学生活、広い世界に目を向けて、悔いが残らないように一生懸命がんばります。



藤綱君が学ぶ雲南大学留学生センター



平成20年度 事業計画（概要）



〔法人〕

1923年に誕生した東邦学園は創立85周年を迎えます。創立80周年の記念事業は、「高校校舎の全面建替え」「大学に人間学部を新設」「新グラウンド完成」という形で教育環境を一新。学園としては最大限の金融資産（借入金を含む）を投下して、一層厳しさを増す学校間競争を見据えた基盤づくりをおこないました。前年度は、大学、高校の各教育組織において学生生徒の多様な要求に応え、かつ質の高い教育を維持するための教育改革にも取り組みました。

85周年の節目はこの基盤のうえに、さらに「魅力ある教育づくり」を目指し、学園の将来に向けた構想に着手します。そして、今後とも安定した経営基盤のうえに特色ある教育研究活動を展開し、地域社会の要請に応えます。

1. 学園の将来計画と教育改革の推進

学園が教育・研究機関としての役割を全うするには、活動について絶えず謙虚に見直し、社会のニーズに応えつつ次代を見通した将来計画を示す必要があります。教育と研究の質的向上なくして志願者の増加、学生生徒の安定的確保の展望は開けません。教育活動の実際の担い手は教員です。そのための新たな教育条件——例えば学則定員など——を検討するため、法人部門は企画広報部を中心に、現状分析をはじめ、調査・研究・情報提供を行い、各教育組織と連携した全学一体の将来像をまとめます。

2. 厳しい財政状況への理解と第2次計画の見直し

2006年度に策定した「第2次中期財政計画」(07～11年度)は大学、高校ともに定員確保を前提としていますが、いずれも2年連続で定員を割りました。数値目標を定めた人件費率も高校部門では画餅に終わり、このまま推移すれば、危機的状況を迎えます。教職員に財政状況を率直に説明し理解を求めると共に、財政基盤の安定強化を図るための「第2次中期財政計画」は、見直します。

- (1)財政が直面する状況を検証し、教職員の理解と共通認識の形成に努力します。
- (2)学生生徒納付金の安定的確保に向けて、志願者増と募集定員充足のための方策を検討します。
- (3)G P（特色ある大学教育支援、学生支援プログラム）など特別補助金の獲得を目指します。
- (4)人件費総額の抑制に努め、消費支出に占める人件費比率の適正化をはかります。
- (5)引き続き経費の節減に努めるとともに、Webの活用など業務の見直しや外注物件費の低減化に努めます。

3. 組織運営の充実強化と学外の声に一層耳を傾ける姿勢

時代や社会の変化に耳目を一層開き、必要な制度改革や適切な対応策を迅速に打ち出せる理事会の体制づくりを進めます。

- (1)理事会の構成や執行体制を検討します。
- (2)理事会・評議員会は、全員が見識を開陳できるように、開催日を見直します。

- (3)企画の立案と調査、労務、広報、寄付金等外部資金集め、同窓会組織、OBとの連携を強化する体制を構築します。
- (4)大学と高校と法人との間のコミュニケーションの向上を図ります。
- (5)大学・高校の連携検討会を常設化します。

4. 教育環境の整備

財政計画の5年間の施設設備関係支出額を基に、その範囲で年次計画により施設設備を拡充・改善します。

5. 学園の存在感を内外に示す広報機能の充実と周知の徹底

学園の教育活動及び事業に関する情報を広く社会に提供するための広報活動を行います。また、学園の事業報告及び財務情報を広く一般に開示します。

- (1)広報誌「東邦キャンパス」の内容充実にも努め、学園関係者に配布します。
- (2)ホームページを活用して、学園のPRと認知度を高めます。
- (3)理事会や常任理事会などの決定事項、学園の動きを教職員にいち早く届けます。

6. 支援組織や同窓会との関係強化を通じた学園活性化

学園の教育支持基盤の確立を図るため、支援組織の活性化に努力し、連携関係を強めます。

- (1)「フレンズTOHO」との関係を検討し、学園と双方に利益があるようにします。
- (2)卒業生は学園にとって生きた財産であるという認識の下、恩師と集う「東邦デー(仮称)」の定期開催や子弟の高校や大学への入学「特別枠」、学園カルチャー講座などへの参加など優遇策も検討します。

7. 地域社会への貢献

学園の資源を有効に活用した生涯学習事業を継続し、社会貢献と学園と地域社会との連携強化に努めます。災害時の協力関係、施設の開放を検討します。新たに「東邦学園下出文庫」の資料を一般公開する博物館構想を実現化させます。

平成20年度 東邦学園予算の概要

去る3月26日の理事会において、東邦学園の平成20年度予算が承認されました。その概要を学校法人会計基準に基づく「資金収支計算書」「消費収支計算書」をもって報告します。

資金収支予算書の要旨

「資金収支計算書」は、経営に関する諸活動を支払資金の動きに関連した取引について、その年度における諸活動に係る収入と支出の内容を科目別に明らかにしたものです。

支払資金の増減については、次年度繰越支払資金は14億4,350万円となり、前年度末と比較して2億8,738万円の減となりますが、主たる要因は減価償却引当特定預金 1 億3,290万円、退職金支払に対する財団からの交付金収入が年度をまたぐことなどによる期末未収入金の増7,600万円となります。借入金返済支出は愛知県の授業料軽減及び施設設備補助金に係る債務負担行為であり、実質的には収支に影響を及ぼしません。

(単位：円)

収 入 の 部				支 出 の 部			
科 目	19年度	20年度	増 減	科 目	19年度	20年度	増 減
学生生徒等納付金収入	1,693,970,000	1,692,540,000	-1,430,000	人 件 費 支 出	1,938,190,000	2,043,080,000	104,890,000
手 数 料 収 入	44,200,000	44,560,000	360,000	教育研究経費支出	438,510,000	458,380,000	19,870,000
寄 付 金 収 入	26,300,000	23,300,000	-3,000,000	管 理 経 費 支 出	205,720,000	184,490,000	-21,230,000
補 助 金 収 入	1,339,670,000	862,520,000	-477,150,000	借入金等利息支出	28,040,000	32,550,000	4,510,000
国庫補助金収入	102,780,000	120,000,000	17,220,000	借入金等返済支出	262,950,000	382,640,000	119,690,000
地方公共団体補助金収入	1,236,890,000	742,520,000	-494,370,000	施 設 関 係 支 出	1,911,320,000	16,630,000	-1,894,690,000
資 産 運 用 収 入	11,790,000	13,270,000	1,480,000	設 備 関 係 支 出	228,370,000	46,620,000	-181,750,000
資 産 売 却 収 入	0	0	0	資 産 運 用 支 出	0	132,900,000	132,900,000
事 業 収 入	3,490,000	3,300,000	-190,000	そ の 他 の 支 出	57,210,000	57,340,000	130,000
雑 収 入	41,160,000	127,870,000	86,710,000				
借 入 金 等 収 入	1,069,630,000	209,780,000	-859,850,000				
前 受 金 収 入	400,480,000	396,380,000	-4,100,000				
そ の 他 の 収 入	529,610,000	423,580,000	-106,030,000	予 備 費	50,000,000	50,000,000	0
資金収入調整勘定	-1,123,790,000	-729,240,000	394,550,000	資金支出調整勘定	-56,230,000	-49,390,000	6,840,000
前年度繰越支払資金	2,758,450,498	1,730,880,498	-1,027,570,000	次年度繰越支払資金	1,730,880,498	1,443,500,498	-287,380,000
収 入 の 部 合 計	6,794,960,498	4,798,740,498	-1,996,220,000	支 出 の 部 合 計	6,794,960,498	4,798,740,498	-1,996,220,000

- 「借入金等収入」2億978万円は、高校の授業料軽減の愛知県債務負担行為に係るものであり、返済金は全額補填されます。「借入金等返済支出」3億8,264万円は、授業料軽減や施設設備補助金の支出です。
- 「雑収入」には、退職者に対する退職金財団からの交付金 1 億2,747万円を含んでいます。

消費収支予算書の要旨

「消費収支計算書」は、収入の中から納付金や補助金等の負債とならない帰属収入と人件費や物件費等の支払費用の均衡の状態を明らかにしたものです。帰属収入からは資産を維持するための基本金への組入額を除き、これを消費収入として消費支出と均衡の状態をみます。

平成20年度は、三大事業に伴う施設投資の結果、減価償却額は平成18年度決算時より大学4,900万円、高校9,600万円の増加となります。大学部門の人間学部が2年目ということもあり、学園全体では3億5,883万円の消費支出超過となっています。

(単位：円)

消費収入の部				消費支出の部			
科 目	19年度	20年度	増 減	科 目	19年度	20年度	増 減
学生生徒等納付金	1,693,970,000	1,692,540,000	-1,430,000	人 件 費	1,924,930,000	2,013,660,000	88,730,000
手 数 料	44,200,000	44,560,000	360,000	教 育 研 究 経 費	746,940,000	775,100,000	28,160,000
寄 付 金	35,790,000	24,060,000	-11,730,000	管 理 経 費	211,820,000	192,390,000	-19,430,000
補 助 金	1,339,670,000	862,520,000	-477,150,000	借 入 金 等 利 息	28,040,000	32,550,000	4,510,000
国庫補助金収入	102,780,000	120,000,000	17,220,000	資 産 処 分 差 額	798,150,000	0	-798,150,000
地方公共団体補助金収入	1,236,890,000	742,520,000	-494,370,000	徴 収 不 能 額	70,000	0	-70,000
資 産 運 用 収 入	11,790,000	13,270,000	1,480,000	徴収不能引当金繰入額	0	0	0
資 産 売 却 差 額	0	0	0				
事 業 収 入	3,490,000	3,300,000	-190,000				
雑 収 入	41,160,000	127,870,000	86,710,000	予 備 費	50,000,000	50,000,000	0
帰 属 収 入 合 計	3,170,070,000	2,768,120,000	-401,950,000	消 費 支 出 合 計	3,759,950,000	3,063,700,000	-696,250,000
基 本 金 組 入 額	-136,930,000	-63,250,000	73,680,000				
消 費 収 入 合 計	3,033,140,000	2,704,870,000	-328,270,000	当年度消費収支差額	-726,810,000	-358,830,000	367,980,000

- 「人件費」には、退職金及び退職給与引当金が123,560万円含まれています。
- 「教育研究経費」「管理経費」には、減価償却額が3億2,462万円含まれています。

高校新入生より納付金を改定

2008年度新入学生より納付金の改定をすることと致しました。今回の改定により、授業料と施設設備費がそれぞれ月額1,000円の値上げとなりました。

2006年9月、理事会は新校舎建設に伴い、維持管理費や水光熱費が増加すること、また減価償却費が増え、建築借入金の返済金が生じることから、2007年度より施設設備費を3,000円値上げすることを提起しました。協議の結果、2007年度からの値上げを理事会は断念し、昨年6月「2008年度の新入生から」と再提案いたしました。本校独自の協議機関「四者懇談会」(P T A・生徒会・教職員組合・理事会)や、関係団体と理事会は個別懇談をおこないました。

その結果、2,000円に減額し、授業料と施設設備費に振り分けることにし、2008年度入学生父母に通知い

学園の人事構成

本年度の学園の人事構成は下記の通りです。

◆役員・評議員

理 事 長	柿 直樹
理 事	山極 完治、森 靖雄 高井 茂雄、志水 廣己 堀田 勝行、数納 幸子 伊藤 時雄、吉岡 睦博
監 事	石川 元廣、川村 秀男
評 議 員	森 靖雄、長南 仁 山本 正彦、増田 貴治 志水 廣己、市丸 民治 岡田 保、森井 勝也 堀田 勝行、伊藤 巖 戸谷 正行、森川 早苗 中林 功、太田 茂 鈴木 基仁、門野 史明 鈴木 健治、架谷 昌信 嶺本 昌行、柴田長兵衛 大矢 正成

◆法人事務局

事 務 局 長	増田 貴治
総務部長(以下大学総務部同役職兼ねる)	堀田 時弘
企画広報部長	深谷 儀敬
総務部長補佐兼経理課長	柴田千登勢
総務課長兼人事課長	藤井 玲子
施 設 課 長	小林 憲之
総務課長補佐	谷川 智代
企画広報課長補佐	奥田 緑

◆大学

学 長	山極 完治
経 営 学 部 長	長南 仁
〃 地域ビジネス学科長	浅生 卯一
人 間 学 部 長	山本 正彦
〃 人間健康学科長	石川 幸生
〃 子ども発達学科長	古市 久子
図 書 館 長	浅生 卯一
情報システムセンター長	高木 靖彦
学修教育支援センター長	山極 完治
学修教育支援センター副センター長	澤田 節子
研 究 所 長	森 靖雄
学長補佐兼総務委員長	成田 良一
入試就職委員長	深谷 和広
教育支援委員長	矢藤誠慈郎
資格実習委員長	井上秀次郎
生活支援委員長	小野 隆生
図 書 館 委 員 長	浅生 卯一
情報システム委員長	高木 靖彦
地域国際交流委員長	宗貞 秀紀

◆大学事務部

事 務 長	堀田 時弘
学務部長兼図書館課長兼情報課長	室 敬之
学務部長補佐兼入試課長兼就職課長	前田 喜夫
学修支援課長	齋藤 周一
生活支援課長	二宮加代子
学修支援課長補佐	新村 健
学修支援課長補佐	貫名 正樹

生活支援課長補佐	阪口 将史
入 試 課 長 補 佐	村上 道治
図 書 館 課 長 補 佐	黒柳 好子
◆高等学校	
校 長	高井 茂雄
教 頭	市丸 民治
〃	長沼 均俊
校 務 部 長	保古 久志
教 務 部 長	佐々木泰裕
生 活 指 導 部 長	高倉 清文
事 務 部 長	松浦紀代史
渉 外 企 画 室 長	岡田 保
進 学 指 導 室 長	荻原 永
職 業 指 導 室 長	大島 正和
国 際 交 流 室 長	河野 芳江
保 健 指 導 主 事	渡邊 素幸
メディアセンター長	森井 勝也
生 徒 会 正 顧 問	岡本 洋美
学年主任第1学年	加藤 元雄
〃 第2学年	中林 幹雄
〃 第3学年	寺島多岐夫
教科主任 国語科	吉山奈緒子
〃 社会科	森下 康介
〃 数学科	平川 史子
〃 理 科	小寫 大介
〃 保健体育科	桜井 秀樹
〃 芸術科	小塚 康成
〃 英語科	森 広和
〃 家庭科	山田 博子
〃 商業科	小嶋 裕人

永年勤続者の表彰

◆大学

20年	中山 孝男	堀田 時弘
15年	所 智子	

◆高校

25年	高倉 清文	中林 幹雄		
20年	桜井 秀樹	渡邊 素幸	森田 泰弘	
15年	伊藤 英一	岡本 増吉	佐竹久美子	
	竹田 正美	松下 明生		
10年	船水 郊子			



学園の発展を期待して、お別れのご挨拶！

一楽 信雄（元大学教授）

去る3月に8年間の務めを何とか卒業させていただきましてことをご報告申し上げるとともに、関係各位の皆様方には、公私にわたって大変にお世話になりました。この場をお借りして、衷心より御礼申し上げます。

大学新設の1年前から短大の専任として、前学長の丸山先生と同時に参り、いくつもの歴史に残る事実に出会うとともに、皆様との新しい出会いに恵まれて、この期間は、私個人にとってもこれまでにないスリルに満ちた、波乱に富んだ時期でもありました。

最初の一年は、初めての9割以上が女子ばかりの授業を受け持つという初体験。大学立ち上げに伴う情報センターの新設準備委員長としての学内外との調整業務と事前テストなど。大学初年度から完成年度までのセンターの維持をはじめ、丁度時を同じくして始まった自己評価・自己点検の他大学との相互評価準備から第三者認証評価の義務化を経て、そのための準備などにも関わる機会にも恵まれました。

さらに愛知東邦大学への名称変更とともに、昨年度から人間学部がスタートし、新しい教職員の方々との3つの委員会での交流なども通じて、貴重な1年間にもご一緒できました。このようにさまざまな局面で貢献できたことは、人生終盤の身にとって大きな花を咲かせていただいたという満ち足りた気持ちで日々を過ごしております。

また、個性豊かな学生のみなさんが在学中に大きく成長していく姿をみて、社会での活躍ぶりを知りたいという欲求にも駆られております。このように、私にとっての新しい地・名古屋での経験は、これからの生活をますます豊かなものにしてくれるものとなっております。

皆さまとは、また名古屋であるいは東京近辺で、再会できることを楽しみにしております。それまでどうぞお元気で！



退職の辞

游 仲勲（元大学教授）

愛知東邦大学に5年間在職しました。開学3年目からですが、変化の速いのには驚きます。建物は余り変わりませんが、卒業する学生が変わるのは当然として、教職員が随分変わりました。まさに創成期の真只中にあります。今から50年、100年経って、「天下に愛知東邦大学あり」として有名な大学に育つことを

期待しています。小生自身は家族の病気などで、余りお役に立てませんでした。それでも将来の「天下の愛知東邦大学」創成期に働けたことを誇りにします。大学をめぐる情勢は厳しいですが、「東邦」のブランドを生かし、特色ある教育を行えば、小型でも（場所が増え大型になっているかも）「天下の愛知東邦大学」は夢ではありません。私は4分の1世紀以上も前に日本最初の大学院大学の創設に努力しましたが、今や経営大学院アジア1位のランクです。教職員の皆様のご活躍をお祈りします。在職中はお世話になりました。ありがとうございます。

「巡り合わせ」と言うものの

長谷川 明（元理事・教諭）

「光陰矢のごとし」。これが38年間勤務し、定年退職を迎えた実感です。

「赤萩校舎」、新旧「平和が丘校舎」、これら3つの校舎で勤務を重ねました。東邦一筋でした。裏を返せば、他学園のことも、他業種のことも経験せず、無知のまま過ごしてきた38年間だったといえます。恥ずかしい限りです。

この間、学園も変わりました。高校は、男子校から共学に。戦没者慰霊事業「平和の碑」建立。修学旅行は長崎から沖縄、中国に変わりました。東邦は校長を除く全ての役職を選挙で選んでいましたが、教頭と事務部長が任命になりました。これらの変わり目、不思議に縁があって関わってきました。巡り合わせとは言うものの不思議を感じます。

今後は「フレンズ・TOHO」の事務局に加わります。新たな出会いと巡り合わせを大切にしたいと考えています。

これまでの皆様のご指導ご鞭撻に心より御礼申し上げます。



「気」を感じて

長谷 和志（元高校教諭）

「行く川の流れば絶えずして、しかもとの水のあらず…」

東邦高等学校では7年間、岐阜の地で、はや9年目を迎えるようとしています。

最近ある著名人と話し、印象に残った以下の事例を言葉に変えさせて頂きます。

「人間は気を発しており、これが電波のように周りに飛んでいる」

先日、岐阜長良川陸上競技場ですざましい「気」に遭遇しました。写真判定室からスタンドに出た瞬間です。それは男子110mH決勝。直後、ぶっちぎりの13秒台でフィニッシュラインを超えた選手は見事に県新記録をマーク。その「気」は今年から岐阜に就職した岩船陽一選手が発

したものであったのです。愛知では普通にみられる記録ですが、身震いを覚えました。

わたしが陸上競技に魅せられるのは、スタジアムで選手が発するポジティブな「気」で充滿しているからだと思います。すばらしい仲間、人との出会いもよい「気」から始まります。現在の勤務校は高い目的をもち本気で学習に励む生徒、10の全国出場を目標にしたクラブ活動と、校内はやる気に満ちています。

直立した時の重心は臍下にあります。「身体重心の移動を考える」「軸を意識する」といったトレーニングのポイントとなる動きや強化部位である体幹の中心も臍下です。

気をコントロールする部位が臍下であることから体幹トレーニングや軸や重心移動に関与するトレーニングは意識的に、しかもプラス思考の「気」を発しながら行うことが重要なのです。今、抱える仕事にも言えることです。岐阜でこれからどんな「気」を持った人達に出会えるか、とても楽しみです。



退職にあたって「長年のご支援に感謝」

吉岡 睦博（元法人事務局長）

東邦学園85年の歴史の半分以上にもなる46年間勤めさせていただきました。北海道で生まれ育ち、地縁の全くない愛知県に転居して間もない時に中学卒業を迎え、またもや父の静岡への転勤が決まり高校進学に困っていたところを、担任の先生から勉強と生活ができる東邦高校をお世話していただいたのが学園との縁でした。おかげさまで、それから8年間夜学に通うことができました。

在職期間を振り返ると、東邦高校が現在地の平和が丘に移転する前の10年とその後15年、短大に移り事務長13



◇TMCCだより◇

平成20年度前期講座

- ◆人が生きやすい地域をどう創るか 募集中
～新たな「地域福祉」の時代に～
6/6、13、20、27 金曜日 13：00～14：30 全4回
- ◆畑 儀文さんと楽しむシューベルト 募集中
～シューベルトとロマン派絵画～
6/15、29 日曜日 13：30～15：00 全2回
- ◆地球はどうなる？温暖化・異常気象
～いまさら聞けない異常気象の基礎知識～
5/19、26、6/2、9 月曜日 14：40～16：10 全4回

年、法人事務局長として11年になります。その間、短大の事務長は法人の経理を何年間に兼任、事務局長も3年間短大事務長と兼任でした。

このように私の新しい仕事のスタートは、定時制高校にはじまり職務上の新ポストもすべて二兎を追う形でしたが、学園の経営にとって大きな事業であった短大の経営情報科設置や大学の新設、そして最後は80周年記念事業に携わることができました。格別能力もない私が務められたのは、いつの場合にも優れた部下に恵まれたことにありますが、ご先輩方や多くの皆様に支えられたからです。たいへんお世話になりました。感謝いたしております。

退職後についての確たる予定は当然ありません。時間的な豊かさを満喫してから、これまでできなかった新しい生活を探し求めていきたいと思っています。

最後になりましたが、このような私を育てていただいた東邦の更なる発展を祈念いたします。



退職にあたって

青山 元樹（元大学職員）

東邦学園には9年間お世話になりました。社会人としての基本、人間関係の基本、仕事のいろはを学ばせていただき、また、チームとしてどのように成果を出していくかを教えていただきました。

軽音学部顧問として5年間学生の皆さんとともに活動させていただく間には、いろいろな出来事がありました。教職員の諸先輩方や後援会、同窓会の皆様にもいつも暖かい言葉をいただき、励まされ楽しく仕事をさせていただきました。

4月からは愛知県内の中学校の音楽の先生をしています。これからも東邦学園の発展を心よりお祈りしております。

◆ママと遊ぼうリトミック！

5/14、21、28、6/4、11 水曜日 10：40～12：10 全5回

◆楽しみ学ぶゆたかな朗読

5/8、22、6/5、19、7/3、17 隔週木曜日 10：40～12：10 全6回

◆一日体験！マシントレーニング

募集中

～筋力アップで健康な生活を～

6/4、11、18、25 水曜日 18：00～19：30 各1回

【お問合せ・申込先】

東邦学園名東コミュニティ・カレッジ（略称TMCC）
Tel：052-782-1241 Fax：052-781-0931

キャンパス短信

＜ 法 人 ＞

寄付者銘板が完成

TOHO80周年事業（大学グラウンド新設、大学新学部開設、高校新校舎建築）に向けた募金活動が2004（平成16）年から実施されてきました。一定額（個人5万円、法人50万円）以上の寄付をされた方々に感謝し、末永く学園への貢献を顕彰しようと、寄付者一覧の銘板を高校新校舎内（1階事務所前）に設置しました。

「3年・3億円」の目標は達成できませんでしたが、総額約1億6千万円('08.3.31現在)となりました。本年11月末までが、この募金の免税対象期間となっており、現在も引き続き募金が寄せられています。

＜ 大 学 ＞

名東カルチャーゾーン構想シンポジウム

大学のキャンパスを広げる提案

地域創造研究所所長 森 靖雄

「大学の研究成果や学生の活動をキャンパスから外へ広げよう」「大学周辺の方々にもっと大学を活用していただく」、では具体的にはどうしたらよいのか。研究所ではこういう課題を掲げて3年前から取り組んでいます。

2月20日(水)に、学園や地域の誰でも参加できるシンポジウム（討論会）の3回目が、25人ほどの市民らが参加して大学で開かれました。

今回のテーマは「地域の核としての商店街」でした。加藤常文氏からは藤が丘に地下鉄車庫が作られたいきさつなど、中小路進氏からは一社駅周辺に空き店舗や空きビルが増えているが活用できないか、猪子石（文書による参加）からは商店街の実情などが報告されました。学園からは榊常務理事（現理事長）から「大学の教室を地下鉄駅の近くに開く。夕方以後は地域の人たちが学べる・集まれる場としても活用する」という構想が提案され、反響を呼びました。

この後、生協食堂で参加者が交流しあいながら、構想の具体化について話し合い、盛り上がりました。研究所では、「キャンパス拡大構想」がユメから現実へ

発展し始めたと判断し、近くプロジェクトチームを編成して、具体化の調査・検討に入る計画を練っています。

ファミリーサッカースクール開催

「朝日新聞ファミリーサッカースクール in 日進」（朝日新聞・尾張朝日会主催、日本プロサッカーリーグ後援、愛知東邦大学協力）が2月16日に愛知東邦大学日進グラウンドで開かれました。105組210人の親子が参加する大きなイベントでした。サッカー部の学生は実際にスクールの手伝いを体験しました。元日本代表の小倉隆史コーチらの指導に、大人も子どもも魅了されていました。



小倉コーチ 前列（左から4人目）、大学サッカー部 藤川監督（右から3人目）と部員たち

＜ 高 校 ＞

日本文学館 超短編小説大賞 水野愛美さんが佳作を受賞

文芸部顧問 茶谷 和彦（国語科）

「先生短編で佳作とったっばい」

このメールが届いた契機となったのが、去年、初めて参加した文芸連盟主催の東海文芸道場です。特に「映絵（うつしえ）」という全国の高校生の中から優秀作品を集めた作品集に部員達は惹かれたようです。

その魅力が部員達の創作意欲をますますかき立て、「私たちも全国の中から選ばれるような作品を作ろう」ということから公募ガイドへの応募へとつながり、今回の受賞に至りました。

部誌『Flow』のイラスト、小説、詩…、それぞれ表現するものは異なるけれど、これからも個々の世界を作品に映し出していきます。



エコ活動の取り組み なごやスクールISOに認定

東邦高校ではエコ社会実現に向けて、光熱費削減や紙使用量やゴミ総量削減に取り組んでいます。

このたび、名古屋市長からなごやスクールISO認定証をいただきました。

今後も環境にやさしい学校づくりをめざしていきます。



大学生協ニュース



八百津で森林保全体験

本学の学生8人と教員1人が、岐阜県の「八百津の森」で森林間伐作業を体験しながら環境問題を学ぶイベントに参加しました。「八百津の森・私の青空」というこの企画は大学生協東海地域センターが全日空と共催し、ZIP-FM、八百津町などの協力を得て昨年から開催されているものです。東海3県から280人ほどが集まり、森林保全のために間伐をしないと山崩れの原因になる理由などを聞いた後、小グループに分かれて、樹木の伐採や運び出し、ノコ挽きなどを順に体験し、さらに地元の林業者たちと山林作業などについて交流しました。

ZIP-FMのインタビューを受けた小池英次君（経営3年生）は、「ちょっとだけ放送されたが名前は言われなかった」と残念そうでした。



新入生が「生協の樹」を花盛りに

本紙前号でご紹介した生協食堂の「生協の樹」が満開の桜に変わりました。ブランコにも入学したばかりらしい女の子が遊びに来ています。

〇〇〇 キャンパス短信 〇〇〇

今回の作業は生協学生委員の太田早香さん、山口明日葉さん（いずれも子ども発達学科2年生）ら3人がやってくれたあと、「生協新入生のつどい」の第1回に参加した100人ほどが、それぞれ大学入学の想いを書いた花を加えて満開にしてくれました。



「生協新入生の集い」を開催

生協学生委員会（経営学部3年生：久保勇樹君）では、はじめて「生協新入生のつどい」を開きました。3月15日(土)に開かれたこのつどいでは、各学科の先輩学生が大学生協の仕組みや“組合になるとお得”な話などをしてくれました。グループに分かれて大学に関するクイズなどもあり、先輩と新入生が一緒になって考え、食べきれないほどのお菓子の賞品に盛り上がりました。この集まりで、生協を運営する学生委員に参加することを申し込んだ人もありました。

その後、4月3日(木)にもう一度、新入生ガイダンスの中で学部に分かれて、生協の加入方法や、教科書、コンピュータの買い方などの説明が行われました。説明はすべて学生委員が行いました。

クラブ活動 高校

サッカー部



愛知県高校サッカー新人戦優勝！

サッカー部顧問 横井 由弦

愛知県高校サッカー新人戦で2年振り4回目の優勝を勝ち取りました。

現在、高体連サッカー競技は夏の高校総体、秋の高円宮杯（プリンス・リーグ）、冬の高校選手権、春の新人戦という過密スケジュールで、春の新人戦だけが、全国大会につながっていない、県大会優勝までの栄冠。

しかし、今回の優勝はとかく色々な面で比較されがちな中京大中京高校を決勝で倒しての勝利で、格別の想いがあります。

1回戦からの4試合は、1年生の播勇輔、大津湊太、高島隆之、志摩俊明、桑山大助、中津隈史樹などの活躍で無難に勝ち上がりました。

準々決勝対刈谷北戦、準決勝対愛産大三河戦、決勝対中京大中京戦からは、いよいよ2年生の本領発揮。金弘淵、野田健太、渡邊元規、神野史也、鶴川尚、伊藤勇人などが持てる力を思う存分発揮して見事優勝を勝ち取りました。

サッカー部父母会、サッカー部OB会、学校関係の皆様には大変熱い応援をいただき、誠にありがとうございました。感謝の気持ちを込めてお礼を申し上げます。（学年は昨年度のものです。）



駅伝



第62回名古屋駅伝競走大会

陸上部顧問 松岡 直希

2月3日に行われた名古屋駅伝において、総合19位（愛知県勢8位）と満足のいく結果を残せました。これも学校関係、保護者の方々からの応援・支援して頂いたおかげだと思います。この場を借りてお礼申し上げます。ありがとうございました。

中でも、エースの田口は本調子ではない中、力走をし、チームに流れをもたらしてくれました。彼は、山梨学院大学に進学し、東邦史上初の箱根ランナーになるでしょう。ひとりひとりが自分の役割や力を出すことができ、今回の結果になったと思います。

来年は上位校の豊川工・豊川・岡崎城西・名電・愛知・中部大第一を撃破します。



いなざわ駅伝で優勝した選手たち

バントフリング部



更なる進化を目指して

顧問 志水 廣己

バントフリング部は1985年の男女共学化に合わせて創部されて、今年度で24年目を迎えます。これまでに、3年生まで活動が続けて卒業していった部員数は170名余に達し、そのほとんどがOG名簿に確認されています。ここ3年は毎年OG会を持ち、毎回50名を超える参加があり盛会でした。

創部以来一貫して、全国的にもトップレベルの指導力をお持ちの佐野仁美コーチのお世話になっています。年間の活動は、バトン演技とポンポン演技を

ほぼ半々に取り組んでいます。昨年度は、高等学校ボンボン演技部門で5年連続8回目の全国大会出場を果たしました。ここ2年は、全国でも上位を争うまでの水準に達しています。

佐野コーチが来校され練習を指揮されるのは、（大会前は別として）週に2回程度ですから、日常練習の多くは部員達自身が計画し実行しています。OGさん達が熱心に練習指導に来てくれることも大きな支えです。ここ数年、部員数が40名台を前後する大所帯になっていますが、全国大会も含めて各種大会には1年から3年まで全部員が参加する体制をとっていますので、厳しくも励ましあい支えあつての部活動です。

この1年、部員と部活動が『笑顔・元気・ファイト』を合言葉に“更なる進化”を遂げていくよう、寄り添い指導していこうと思います。



空手部



8年ぶり出場！選抜大会

空手道監督 村田 悟

3月24日からの長野選抜大会は8年ぶりの出場となり、「形」競技中心のエントリーとなりました。



長野選抜大会・男子団体形メンバーの勇姿

た。選手たちはやむを得ない事情、退部までも重なり、メンバーを再編して臨まざるをえない逆境のなか、甲斐田コーチの組手・形兩種目での鞭撻は適切且つ苛烈なものでした。調整期間正味1ヶ月少々です。選手達のめきめき上達してゆく様には驚かされるものがありましたが、出場四種目とも初戦で敗退。現地での夜間練習を大会期間中は勿論、最終日も行い、インターハイ予選に向け決意を新たにしています。

吹奏楽部



吹奏楽部第52回定期演奏会

吹奏楽部顧問 長野 達也

2月17日に中京大学文化市民会館オーロラホールにおいて52回目の定期演奏会が行なわれました。入場者数1,711名を迎え、多くの聴衆の方々に演奏・演技を披露できたことへの感謝と喜びを感じています。

一部、クラシックでは喜歌劇「メリー・ウィドウ」など。二部、ポップスでは映画音楽。

一音一音に思いを込めた音の空間に観客を包み込み、「昔の懐かしい思い出が蘇った。」という声もいただきました。

三部はステージマーチング。迫力とスピード感のステージに東邦らしさを満載しました。集大成である定期演奏会をこうした大きな会場で、多くの皆様に見て、聞いて頂けることを幸せに思います。

当日お越しいただいた多くの皆様、運営を支えて下さる父母会の皆様など多くの方々に改めてお礼申し上げます。来年度は2月14日、愛知県芸術劇場大ホールにて第53回の定期演奏会が行われます。部員一同、さらなる技術向上に励みますので是非、お越しいただきたく思います。



第52回定期演奏会



女子サッカー部



サッカーしませんか？

大学女子サッカー部監督 長谷川 望

2007年6月に活動を開始した女子サッカー部は、アットホームな雰囲気の中、真剣に楽しく取り組んできました。最初はボールを蹴ることも、止めることもままならなかった学生たちが、フットサルの大大会に参加、初得点、初勝利、そして2月には準優勝を経験することができました。また、スポーツイベント、スポーツ教室、地域清掃、にも積極的に参加しました。新しいことを仲間と共に挑戦する中で、楽しいことも辛いことも経験し、成長できた1年間であったと思います。支えて頂いた多くの方々に心より感謝します。

現在は大学生に加えて教員、高校生も一緒にプレーしています。どなたでも練習参加大歓迎です。一緒にサッカーをしてみたい方お待ちしております。

連絡先 nozomu@aichi-toho.ac.jp

サッカー部



2部昇格に向かって

サッカー部コーチ 米澤 好騎

愛知東邦大学サッカー部のコーチに就任し、ちょうど一年が経ちました。そして新しいシーズンに向けてのトレーニングがもう始まっています。

去年を思い起こしてみると、自分にとってもチームにとっても本当にいい経験ができた一年でした。選手の立場から初めて指導者の立場になり、自分の思いがなかなか選手に伝わらない事や、人に教える難しさなど様々な壁にぶつかってきました。しかし、監督をはじめスタッフの方々に支えられ、教職員の方々からいつも声を掛けていただき、なんとか一年を闘っていく事ができました。

チームとしても、就任した当初は納得できなかった事もありましたが、時が経過するごとに選手達の意識が変わり成長している所を見せてくれました。

でも、一つ心残りの事があります。それは当初か

らの目標であった東海2部リーグ昇格をあと一步の所で果たせられなかった事です。あと1勝すれば…という悔しい思いがあります。あの時の選手・スタッフが流した涙を見て、絶対来年こそは…という思いが強いです。

愛知東邦大学サッカー部は選手、スタッフ一丸となって今年こそ2部昇格という目標に向かって一歩ずつ成長していきますので温かいご支援、ご協力よろしくをお願いします。

大学吹奏楽団



テレビ塔下で初演奏会

大学吹奏楽団団長 中田 舞子

3月22日(土)名古屋テレビ塔の下での初演奏会。今までやってきた【路上ゲリラライブ】から【演奏会】に変わった記念すべき日です。

愛知東邦大学吹奏楽団が立ち上がってから、今年で一年が経ちました。

全てが0からのスタートの中、様々な困難と立ち向かい、いろいろ試行錯誤を繰り返しながらキャスト全員で楽団を少しずつ作り上げてきた結果が、今回の演奏会に繋がりました。

テレビ塔の下で演奏会が出来たのも、第1回のゲリラライブの時に出会ったセントヒサヤビルの社長の全面協力があったからこそです。

様々な場面・様々なかたちで、協力してくれる方々への感謝の気持ちを忘れずに、これからもマーチング、吹奏楽という音楽形態での活動を通じて、演奏・演技の向上に努め、「Pour Vous（あなたのために）」をモットーに、聴いてくれる人達になにかを伝えれる音楽ができるように、日々精進していきます。



行事予告

フレンズ・TOHO定時総会記念講演会

『日本経済のゆくえ』へのお誘い

東邦学園の支援団体「フレンズ・TOHO」は、下記の要領で講演会『日本経済のゆくえ』を開催いたします。会員以外でもご参加いただけますので、ぜひお申し込みください。



日時：平成20年6月23日(月) 3時15分～4時45分

講師：水谷 研治 氏（東京福祉大学 大学院教授、経済学博士）

演題：「日本経済のゆくえ」

会場：名古屋ガーデンパレス 3階 栄泉の間

(名古屋市中区錦3丁目11-13 TEL：052-957-1022)

入場：無料

申込方法 はがき、ファックスまたはメールにて郵便番号・住所・氏名（ふりがな）電話番号をご記入の上、お申し込みください。

お問合せ・連絡先

東邦学園 「フレンズ・TOHO」事務局

〒465-8515 名古屋市長東区平和が丘3-11

TEL 052-782-1241 (担当：奥田) FAX 052-781-0931

E-mail friends@aichi-toho.ac.jp

学園人事往來

人事異動

2008年2月1日

採用／大学職員 前田 喜夫

以下は退職：3月31日、採用・異動：4月1日

法人

退任／理事長 伊藤 時雄

就任／理事長 榊 直樹

異動／法人総務部（兼大学総務部）

藤井 玲子、高木 雄二

大学

退職／経営学部教授 一樂 信雄、游 仲勲

退職／職員 青山 元樹

採用／経営学部教授 青木 葵

採用／経営学部准教授 松村幸四郎

採用／人間学部講師 吉村 譲

採用／職員 河村 宜明、奥田 緑

黒柳 好子、植村 顕子

片野 葉子、神谷美智恵

城山 晶子、對馬 千春

芳野 久美

新村 健、松葉 瑞恵

異動／学務部

高校

退職／理事・教諭 長谷川 明

退職／教諭 長谷 和志

おくやみ

吉本八千代氏（大学職員 貫名正樹の祖母）

平成20年1月21日永眠（90歳）

長野 達氏（高校教員 長野達也の父）

平成20年2月1日永眠（67歳）

藤井 正子氏（大学職員 藤井玲子の祖母）

平成20年3月6日永眠（94歳）

中山 文吉氏（大学教員 中山孝男の父）

平成20年3月21日永眠（81歳）

島田すゝ子氏（大学職員 島田美緒の祖母）

平成20年4月25日永眠（83歳）

TOHO gallery 東邦ギャラリー

絆



今年東邦学園も創立85周年を迎えます。85周年を機に、東邦学園の歴史と伝統を後世に伝えるため、東邦学園の歴史をまとめた「東邦学園85周年記念冊子」を作成しました。この冊子は、東邦学園の歴史と伝統を後世に伝えるための重要な資料となります。東邦学園の歴史と伝統を後世に伝えるための重要な資料となります。

東邦学園 東邦高等学校 愛知東邦大学

奥田瑛二さんと東邦生のポスター

第52回定期演奏会
(関連記事21ページ)



1泊2日の学級合宿
(関連記事7ページ)



大学吹奏楽団
(関連記事22ページ)



台湾高校生が来校



生協食堂が桜から若葉に
(関連記事19ページ)



福永泰コーチらの指導を受ける子どもたち
(関連記事18ページ)



愛知牧場でBBQ
(関連記事8ページ)